



「あきたこまち R」をめぐる国際対話（同時通訳・オンライン）

— IFOAM が日本に宛てた「書簡」を手がかりに、有機農業を考える —

重イオンビーム育種の米「あきたこまち R」は有機農業と相容れるのか

2025 年 11 月 25 日、国際有機農業運動連盟（IFOAM）は、日本における「あきたこまち R」の取り扱いが国際的な有機農業の原則に適合しないとして、海外 12 カ国 13 団体との連名で農林水産大臣、秋田県知事、ならびに農研機構理事長宛に書簡を送付しました。

会期：2026 年 **2 月 27 日（金）**

時間：9:30 ～ 12:30（日本時間）

形式：日英同時通訳オンライン開催 / 参加無料

※参加申込は **2026.1.9（金）IFOAM ジャパン公式サイトより受付開始**



— 「あきたこまち R」への懸念とは —

- ・ 重イオンビーム育種は、何が問題か
- ・ 日本のコメ輸出全体に不利益をもたらさないか
- ・ なぜ、有機認証の対象となっているのか
- ・ そして、有機農業は、未来世代を守る「予防原則」を置き去りにしていないか
- ・ なぜ、表示されていないのか

— 国の内外から沸き起こる数々の疑問を、ともに解き明かすときが来た —

プログラム概要

◆日本側からの報告

印鑑智哉（いんやく・ともや）氏（OKシードプロジェクト事務局長）

- ・ 日本の放射線育種米と「あきたこまち R」の開発の問題点
- ・ 有機認証はなぜ可能か、なぜ表示がなされないのか
- ・ 秋田県での作付けはどうなっているのか、など



◆IFOAM 担当者による講演

David Gould 氏（IFOAM Seeds Platform 事務局長）

- ・ なぜ IFOAM は日本に書簡を送ったか
- ・ 「新規ゲノム技術のためのグローバル安全性・リスク評価プロトコル」の考え方
- ・ IFOAM の「有機 4 原則」とは
- ・ 「あきたこまち R」は日本のコメ輸出戦略にどう影響を与えるか

◆IFOAM 各国からの発言 / 質疑応答（事前質問への回答を含む）

まとめ・次の対話に向けた整理 など



※参加案内と運営支援のお願い

本会合は、同時通訳を活用し、国内外から多くの方の参加を予定しています。このテーマをより多くの方と共有し、深い対話につなげたいという思いから、参加費は無料とします。一方で、会合の開催・運営には一定の費用が必要となります。ぜひお力添えをいただけましたら幸いです。

【参加者の皆さまへ】任意ですが、1 口 1,000 円程度を目安に、お気持ちに応じてご支援ください。

【協賛団体の皆さまへ】団体 1 口 10,000 円（何口でも可）の協賛にご協力ください。

主 催 | 特定非営利活動法人 IFOAM ジャパン

共 催 | IFOAM（国際有機農業運動連盟）- Organics International

協 力 | OK シードプロジェクト、（一社）オーガニックフォーラムジャパン、
（特非）全国有機農業推進協議会（調整中）

お問合せ：特定非営利活動法人 IFOAM ジャパン 理事長 徳江倫明 事務局長 伊能まゆ

E-mail : <https://x.gd/JtKZ7>

公式サイト : <https://ifoam-japan.org/>



「あきたこまち R」をめぐる国際対話（同時通訳・オンライン）

— IFOAM が日本に宛てた「書簡」を手がかりに、有機農業を考える — 重イオンビーム育種の米「あきたこまち R」は有機農業と相容れるのか

開催趣旨—なぜ、いま「対話」が必要なのか

秋田県産米「あきたこまち R」は、重イオンビームを用いた放射線育種によって開発された「低カドミウム米」として、すでに日本国内で生産・流通が始まっています。現在、秋田県産の「あきたこまち」は、ほぼ「あきたこまち R」に置き換わりつつあります。本品種をめぐるのは、その開発手法や社会的影響について、国内でさまざまな疑問や懸念が指摘されてきましたが、関係当局との間で、十分な協議や相互理解が深められてきたとは言い難い状況が続いています。

こうした中、国際有機農業運動連盟（IFOAM – Organics International）は、2025 年 11 月 25 日、農林水産省、農研機構、秋田県など関係当局に対し、「あきたこまち R」をめぐる安全性・リスク評価の考え方、表示のあり方、有機認証制度（JAS）との整合性などについて、国際的観点から強い懸念を示す「書簡」を送付しました。

この書簡は、国際社会で共有されている有機農業の原則や制度設計と、日本国内の対応との間に、看過できない隔たりが存在することを示しています。

本会合は、この IFOAM 書簡の内容と背景を正確に理解することを出発点とし、日本と国際社会の間にある認識や制度設計の相違点を整理し、まず対話による問題解決の土台を築くことを目的とします。

あわせて、有機農業の原則、消費者の選択権、市場の透明性、国際的整合性、日本のコメ輸出市場への影響など、「あきたこまち R」をめぐる課題を多角的に共有します。

そして、このオンライン講演会を、「IFOAM と農林水産省・農研機構（NARO）・秋田県とによる国際対話」へとつなぎ、対立点の確認から、継続する対話・協議の可能性を探ります。

開催 | 2026 年 3 月下旬～4 月上旬（予定）

◆講師登壇者プロフィール

印 鑑 智哉（いんやく ともや）氏（OK シードプロジェクト事務局長）

世界の食と農の問題を追う。アジア太平洋資料センター（PARC）、ブラジル社会経済分析研究所（IBASE）、Greenpeace、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在は OK シードプロジェクト事務局長。ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』（2015 年）、ドキュメンタリー映画『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』（2018 年）いずれも日本語版企画・監訳。共著で『抵抗と創造のアマゾン—持続的な開発と民衆の運動』（現代企画室刊、2017 年）で「アグロエコロジーがアマゾンに救う」、『イミダス 現代の視点 2021』（集英社 2020）で「種子法廃止に続いて「種苗法改定」で、農家に打撃！？」、『命を守る食卓』（宝島社 2024）を執筆。その他、『世界』（岩波書店）などで記事を執筆



David Gould 氏（IFOAM Seeds Platform 事務局長）

有機および持続可能なフードシステム分野において 30 年以上の経験を有しています。

マサチューセッツ工科大学（MIT）で生命科学の学位を取得し、食品科学、生化学、微生物学を専門的に学びました。これまで長年にわたり、有機基準、実践、政策、認証制度の発展において重要な役割を果たし、現在、IFOAM Seeds Platform の事務局長を務めるほか、Organic Food System Program 運営委員会の委員ならびに OMRI（Organic Materials Review Institute）のアドバイザーおよびレビューパネルのメンバーでもあります。また、IFOAM–Organics International のシニア・ファシリテーターとして 7 年間活動し、その間有機農業のベストプラクティス・ガイドラインや「Organic 3.0」の策定を主導しました。

さらに、育種技術や GMO（遺伝子組換え生物）に関する世界的な立場の整理、水産養殖分野に関する議論にも中心的に関わってきました。現在は、既存の制度や仕組みに対する監督・助言を行うとともに、持続可能なフードシステムの発展に向けた新たなイノベーションの推進に注力しています。有機分野にとどまらず、さまざまな社会的・環境的認証制度、民間企業、政府機関とも直接協働し、組織戦略、リスク評価、ステークホルダー・エンゲージメント、基準および政策の策定、保証・認証システム、影響評価、人材育成、キャパシティ・ビルディングなどに関する支援を行ってきました。



◆参加案内と運営支援寄付のお願い

本会合は、同時通訳を活用し、国内外から多くの方の参加を予定しています。

このテーマをより多くの方と共有し、深い対話につなげたいという思いから、参加費は無料とします。一方で、会合の開催・運営には一定の費用が必要となります。ぜひお力添えをいただけましたら幸いです。

【参加者の皆さまへ】

任意ですが、1口1,000円程度を目安に、お気持ちに応じてご支援ください。

【協賛団体の皆さまへ】

団体1口10,000円（何口でも可）の協賛にご協力ください。

多くの皆さまのご支援を、心よりお願いいたします。

【参加呼びかけ対象】 有機農業関係者（生産者、認証機関、事業者） / 消費者団体、研究者、行政関係者 / 海外の有機農業関係者・研究者など

【参加方法】 ●事前登録制 オンラインフォームは別途、主催のIFOAM ジャパンのウェブサイトにてご案内いたします。 <https://ifoam-japan.org/>

【参加費】 ●無料（別途、任意の寄付 一口1,000円をご案内いたします）

【事前質問】日英双方で受付けます。方法・締切などを別途、IFOAM ジャパンのウェブサイトにてご案内いたします <https://ifoam-japan.org/> 使用言語・日英（同時通訳あり）

協賛団体を募集します

この国際対話の企画の趣旨に協賛いただき、情報共有・周知・参加にご協力いただける団体・グループを、広く募集します。対象は、有機農業関連団体・グループ、消費者団体、流通団体、企業、研究者・専門家ネットワークなど。※協賛条件はIFOAM ジャパンのウェブサイトにてご案内します。

<https://ifoam-japan.org/>

※協賛団体としてお願いしたいこと 〈協賛金のお願い〉

・本企画の趣旨にご賛同いただき、運営協賛金のご協力をお願いいたします。

※1口10,000円（何口でも）

銀行口座：三菱UFJ銀行 恵比寿支店 普通1336528

口座名：特定非営利活動法人 アイフォーム・ジャパン

※協賛団体としてお願いしたいこと（広報協力）

・本企画の趣旨への賛同表明と団体内・関係者への開催情報の共有・周知

協賛団体の対象

・有機農業・環境保全型農業に関わる団体・グループ / 種子、食料、流通、消費者問題に関わる団体 / 研究者・専門家ネットワーク、市民団体 / ・本テーマに関心をもつ関連分野の団体 など。

【協賛団体の皆さまには】

本会合にご賛同いただいた団体名は、開催要項、ウェブサイト、当日配布資料等に掲載予定です。

併せて、本会合を契機とする今後の展開や関連する動きについて、情報提供を行なってまいります。

*掲載方法（正式名称・掲載順等）は主催者に一任いただきます。

協賛方法・お問い合わせ

・協賛表明の方法：オンラインフォームは後日、主催のIFOAM ジャパンのウェブサイトにてご案内します。
<https://ifoam-japan.org/>

備考 内容・時間配分は変更となる場合があります。後日、海外参加者向けに簡潔な英文開催要項を
公開予定です。 以上

連絡先 | 特定非営利活動法人 IFOAM ジャパン

理事長 徳江倫明 事務局長 伊能まゆ 〒160-0015 東京都新宿区大京町 2-4

お問い合わせは上記の連絡先かこちらへ <https://x.gd/JtKZ7>